

重要なお知らせ

# 原料高騰による価格改定について

ニュースなどでも報道されているように、小麦・食用油脂・原油などの価格が高騰し、私たちのくらしにも大きな影響が出てきています。パルシステムでは、商品価格の値上げについて産地やメーカーなどと協議を重ね、一部商品を値上げすることにしました。今回の値上げの背景には、地球温暖化による干ばつの発生や食をとり巻く嗜好の世界規模の変化などさまざまな要因があります。輸入に頼るのではなく、日本の食糧自給率を上げていくことが今後ますます大切です。作る人と食べる人がお互いに理解し合い、生産と消費が折り合って“生産を持続できる価格が「適正価格」”であると考えています。いつの時代でもその商品に見合った「適正価格」であるように、価格の見直しは続けていきます。世界的な価格高騰の背景をご理解いただき、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



## 1 小麦



日本で流通する小麦の約9割は外国産です。これは国が買い付け輸入し、国内の製粉会社に売り渡す流れ。アメリカ、カナダ産の小麦が干ばつの影響で収穫が減り、さらに船舶不足による海上運賃の値上げもあって、輸入小麦が高騰。ここ1年で25%の上昇となっています。輸入小麦の買い付け価格が国産の小麦価格にも影響し、価格が上がっている状況です。



小麦畑のようす



イメージ



## 2 油脂



小麦同様、天候不順による生産量の低下が要因としてあります。さらに、世界全体が脱炭素に向かってバイオ燃料の需要が増えていることも影響しています。ディーゼルエンジンの代替燃料として注目されているバイオ燃料は、「大豆油」「菜種油」「パーム油」などを利用して開発が進められています。生産量が減っているなか、食用だけでなくバイオ燃料としての需要の高まりが値上げの原因です。



菜の花畑のようす



## 3 原油、海上運賃、エネルギー



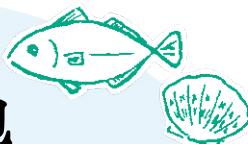
原油価格上昇の要因はOPEC（石油輸出国機構：イラン、イラク、クウェート、サウジアラビアなど石油産出国が加盟）による原油の減産や中東情勢の悪化などですが、各国がコロナの収束にともない経済活動を再開した影響も。原油価格の高騰と、さらにコロナ禍による港湾作業員の不足によって、コンテナ貨物が港湾に滞留し、海上運賃の高騰につながりました。



@pixta



## 4 その他 (水産資源など)



水産資源は温暖化の影響もあり、水揚げ量が激減している魚種が増えています。さらに、海外（おもに中国や欧米）での需要が増えたことで、原料価格の相場が上がっている状況です。燃料価格の高騰も大きな要因。すでにほたては値上がりしており、今後はさんまやさば、魚肉すり身などにも影響していく見通しです。



ほたて漁のようす

今後、200品を超える多くの商品の値上げを予定しています。写真は一例です



「バターロール 7個」  
(2月2回～)



「産直小麦の冷凍うどん  
5食 / 3食」(4月1回～)



「スパゲッティ  
(1.6mm) 1kg」(4月～)



「しっとりもっちり食パン  
6枚切 1斤」(2月2回～)



「しっとりもっちり食パン  
8枚切 1斤」(2月2回～)



「バターが香る  
バターロール 4個」(2月2回～)



「チョコレートマフィン 3個」(3月4回～)  
「お徳用 6個」(4月3回～)



「チョコレートマフィン 3個」(3月4回～)  
「お徳用 6個」(4月3回～)



「スイートデニッシュ  
ブレッド 6枚」(2月3回～)

## 油脂



「甘辛チキンカツ 8個  
256g」(3月～)



「ポテトチップス (しお)  
60g × 4」(3月～)

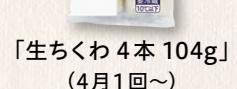
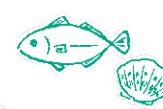


「サラダベース産直ごぼう  
135g × 2」(4月2回～)



「素材で選ぶマヨネーズ  
(卵黄タイプ) 400g」(4月～)

## 水産資源



「生ちくわ 4本 104g」  
(4月1回～)



「おさかなソーセージ  
4本 260g」(6月1回～)



「えび天ぷら 4尾」  
(4月～)

## 世界をとり巻く食糧事情

### 深刻な食糧危機が進むなか、日本の農業を立て直さなければ。

(株)資源・食糧問題研究所 代表 柴田明夫さん



丸紅経済研究所代表を経て、2011年10月より(株)資源・食糧問題研究所を開設、代表に就任。農林水産省「国際食料問題研究会」委員、一般社団法人エネルギー・プランナー協会理事など多数務める。

### 地球温暖化の影響が小麦の値上げの原因に。

2021年末から空前の値上げラッシュが起きています。コロナ禍が追い打ちをかけたこともありますが、小麦価格値上げのいちばんの理由はアメリカ、カナダの干ばつによる減産です。干ばつの原因是、地球温暖化による影響ですから、地球温暖化が私たちの日々の暮らしの身近なところまで迫ってきているということになります。



©pixta

### 脱炭素をめざすことで、供給ショックが起きている。

大豆や菜種など油の原料となる油糧種子の価格も高騰しています。これは、2015年のパリ協定から地球温暖化防止策として「脱炭素」への動きが強まることも一因となっています。バイオ燃料の原料としての需要が高まるにつれ、食糧原料としても価格が高騰してしまったというからくりです。トウモロコシもバイオ燃料として注目されていますが、この影響が畜産の飼料高騰にリンクしています。



©pixta

### “地産地消”で食糧危機に備える。

現在、輸入のマーケットにおいて中国の力は甚大で、日本は買い負けている状況です。その一方で、中国では食べ残しを禁止する法律が可決されるなど、食糧危機への意識も高まっています。日本でも10年ぐらい前までは、安い価格で質のよい食糧を輸入することができましたが、だんだんとそれが叶わなくなっています。

今、大切なことは地産地消をベースとした農業の立て直しです。輸入に頼らず、日本の農業や畜産を元気にしていくことが、未来への備えとなるでしょう。



人參の産地のようす